

曾我さん 家族と再会



発行所
熊本日新聞社
〒860-8506 熊本市世安町172
代表 (096)361-3111
©熊本日新聞社 2004

電子速報

詳しくは熊本日新聞
本紙をご覧ください

1年9カ月ぶり

ジャカルタ夫、娘と抱き合う

【ジャカルタ9日共同】
北朝鮮による拉致被害者曾我ひとみさん(45)と夫ジェンキンスさん(64)、長女美花さん(21)、二女ブリンダさん(18)の家族四人は九日午後五時十分(日本

時間同七時十分)、一年九カ月ぶりにインドネシアで再会した。
同日午前、平壤でジェンキンスさんら家族三人を乗せた日本政府のチャーター機は午後五時(同七時)前、



9日夕、ジャカルタの空港内の貴賓室に着いた(左から)二女のブリンダさん、長女的美花さん、曾我ひとみさん、夫のジェンキンスさん(代表撮影・共同)

ジャカルタ郊外のスカルノ・ハッタ国際空港に到着。曾我さんはタラップを下りてきた三人と次々に抱き合った。

曾我さんは二〇〇二年十月に帰国。今年五月、拉致被害者の子供五人が帰国したが、曾我さんだけは再会が実現せず、孤独を乗り越えやっと願いがかなった。

一家は当分ホテルに滞在し、家族水入らずの生活を楽しむ。しかし、元米兵のジェンキンスさんが来日した場合、米国は脱走罪で訴追する方針で、家族が日本に永住する見通しは立っていない。

滞在の長期化に備えて内閣官房の拉致被害者・家族支援室などが一家の生活をサポート。自炊したいという曾我さんの要望でホテルの室内には調理器具も準備された。曾我さんは家族との再会が決まった際「四人で日本で暮らしたい」と家族そろっての生活に思いをはせていた。